

2月16日

デモクラシー・ナウ

米口は戦争回避を＝ウクライナからの平和メッセージ

ウクライナの平和団体の代表が2月16日、米独立系メディア「デモクラシー・ナウ」に出演し、米国とNATOの双方に、「ウクライナ国内の政治対立に介入して対立をあおるのをやめよ」と訴えました。

同国の「平和主義運動」のユリ・シェリアジェンコ事務局長は、以下のようなメッセージを読み上げました。

対立を煽ってはならない

ウクライナのゼレンスキー大統領は2月16日、ロシアからの軍事攻撃が差し迫っているとしてこの日を「国民団結の日」にすると愛国をよびかけました。しかし、これは本当の祝日ではありません。

彼は「我々は大戦争の脅威にさらされている。軍事侵攻の日が決められた」といって、このメッセージを司令部に伝え、政府関係者や忠誠を誓う人たちに、国旗をふって国歌を歌うよう指示しました。大統領はこういう言い方もしています。「我々はウクライナ軍に全幅の信頼をおいているが、軍隊には国民の支援と結束、団結が必要だ」。

しかし、**私たちウクライナの平和主義運動**は、こういうよびかけに納得できません。ウクライナ軍に信頼を置くことはできないし、現在の危機に軍事的解決策はありえないと思います。

ロシアはウクライナとの国境近くに軍を集結させ、NATO諸国もウクライナ周辺に軍を増強しています。双方ともこれは訓練だと言い、ロシアは侵攻の意図を否定していますが、「ウクライナ（政府）が軍事力でクリミアやドンバスを支配しようとする企ては許されない」と警告しています。

西欧メディアは戦争が差し迫っているとしていますが、予断はできません。私の友人のデビッド・スワンソン（アメリカの平和運動家）は、ロシアの侵攻が迫っているというのは嘘だと反論しています。欧米の政府は、予測される大規模な流血をさけるため、外交官や市民だけでなく軍事顧問まで呼び戻しています。

ロシアのメディアは、プーチン大統領が（ウクライナの）分離主義が主張するドネツクとルハンスク共和国の独立を認める提案を用意したと報じていますが、そんなことをすれば、（ウクライナ政府軍と国内の新ロシア派分離主義勢力との停戦についての）ミンスク合意はご破算になり、さらなるエスカレーションにつながるでしょう。

ロシアのメディアは、「ウクライナ側がミンスク合意を遵守していない」と非難しています。また「米国や NATO は軍事援助や政治支援を強めてウクライナ軍に武力でドンバスの支配権を回復させようとしている」といっています。

ゼレンスキー大統領は平和を約束して 2019 年に当選しましたが、「平和は我々の主張が受け入れられることが条件」だといって、ドンバスの親ロシア派分離主義者との中身のある交渉を拒否しています。こんな態度では軍事的エスカレーションを引き起こします。

前任者のポロシェンコ（前大統領）はロシアの SNS を封鎖しましたが、ゼレンスキー政権はウクライナ国内の親ロシア派メディアを封鎖しました。公用語法を制定して公共の場からロシア語を強制的に排除しました。

こういう措置によって、平和と正義について国民が対話をするのができなくなり、民主的な協議が軍への盲信に変えられてしまいました。そして分断した社会と国民の団結を、軍事力で回復しようという妄想に駆り立てています。

ゼレンスキー政府の軍国主義

ゼレンスキー大統領の与党「国民の奉仕者」は、軍事費を GDP の 5% に引き上げることを約束しました。2022 年度予算では、軍事費を GDP の 6% に増加させました。今年、ウクライナでの NATO 軍事訓練を 10 回もおこなって、米国と英国によるウクライナへの軍事基地建設を喜んで受け入れました。

国会で多数を握った大統領派は権力をゼレンスキーのチームに集中させ、軍国主義的な法律をどんどん制定しています。例えば、徴兵逃れをした人への厳罰や新たな国民抵抗軍の創設です。

ウクライナ軍の人員を 11 万 1 千人増員し、地方自治体に軍事部門を創設して数百万人を強制的に軍事訓練するなど、ロシアとの戦争の際に全国民を動員することをめざしています。

欧州の良心的徴兵拒否の年次報告書「Conscientious Objection in Europe 2020」によると、ウクライナでもロシアでも、もちろん分離主義の人民共和国はもちろんですが、徴兵拒否が法的に認められ、その信念が保護される機会はほとんどありません。兵役以外の代替手段は利用できず、差別的で懲罰的な性質は変わりません。このように、いまの軍事力増強と、ウクライナの全住民をロシアとの戦争に動員しようとするゼレンスキー政権の企てによって、わが国の民主主義と人権が大きく損なわれています。

ウクライナは中立であるべきだ

ウクライナで大規模戦争にむけてのエスカレーションは必要ありません。ウクライナ政府は、世界的な権力争いの中で西欧の側につきましたが、これは無謀です。私たちは中立であるべきだと思っています。

普遍的な平和にコミットすべきです。ウクライナ人は世界のすべての人々と同じように、平和に暮らし、幸せになることを望んでいます。西側と東側の大国は両方とも責任があります。ウクライナの戦争が拡大して周辺に広がることを避け、このような不条理な政治的争いのために地球上の生命を絶滅しかねない核兵器を放棄する責任です。**すべての政府が核兵器禁止条約に参加すべきです。**

世界の指導者たちが、誠意を持って持続可能な平和を交渉しないで、責任を他になすりつけ、ウクライナという局所的な場での権力争いを暴力的に解決させようとしています。本当に恥ずべきことですが、残念ながら今、ウクライナは米露間の新冷戦の戦場となってしまいました。

(以下は質疑応答)

質問 あなたは「双方の軍が自分たちの存在を正当化しようとしている」と指摘されましたが、特にウクライナ国内のナショナリズム、あるいはウクライナ国内の右翼グループのナショナリズムが、この戦争をどのように煽っているのかをお聞きしたいのですが。

ユリ・シェリアジェンコ事務局長

ネットの影響が大きいですね。これは両大国が、ロシアのナショナリストと西側のナショナリストをそれぞれ常連の顧客にして構築したものです。

ウクライナが米露間の新冷戦の場となったとき、両大国はウクライナを支配しようとして、ウクライナ政府の過激なナショナリズムや、ドネツクやルハンスクの親露分離派の過激なナショナリズムを煽って、世界的な権力闘争に利用しているのです。ウクライナの平和な生活を壊したのは、これらの過激なナショナリズムと大国の権力闘争です。

(2014年以來) 8年間の流血は何千人もの市民の命を奪い、何百万人もの人々を難民や国内避難民にし、経済を荒廃させ、社会を衰弱させました。

だからこそ、私たちはウクライナや世界の平和を支援するすべての人々の支援に感謝しています。アメリカでは「コードピンク」(米平和団体)がロシアとの戦争反対の素晴らしい活動をしています。私たちも彼女たち一緒になって反対の運動を伝えています。

明日(2月17日)は、ドイツの首都ベルリンにいる友人たちが、ロシア、ウクライナ、米国、NATO諸国の間の紛争の緩和を呼びかける活動をします。在ベルリンのアメリカとロシアの大使館の間で人間の鎖を作ります。これは、人々の間の人間性の絆が、恐怖や憎しみ、ヒステリックな戦争挑発者たちに打ち勝つことができることを示す、シンボリックな機会になるでしょう。

(以上)

ユリイ・シェリアジェンコ：「ウクライナ平和主義運動」事務局長。「ヨーロッパ良心的兵役拒否局」「戦争を超えて」理事